

第6回神奈川県水道ビジョン検討会 開催結果

1 会議名

第6回神奈川県水道ビジョン検討会

2 開催日時

令和6年2月19日（月）15時00分～16時00分

3 開催場所

神奈川県庁西庁舎8階 健康医療局会議室1

4 出席者

小泉 明（東京都立大学 都市環境学部 特任教授）【会長】

長岡 裕（東京都市大学 建築都市デザイン学部 教授）

浅見 真理（国立保健医療科学院 上席主任研究官）

小熊 久美子（東京大学大学院工学系研究科 教授）

5 開催結果

別紙「第6回神奈川県水道ビジョン検討会 議事録」のとおり

第6回神奈川県水道ビジョン検討会 議事録

1 開会

事務局より配布資料の確認を行った。

2 議題

(1)神奈川県水道ビジョン改定案について

事務局から、資料1～3により説明

【意見・質疑】

(小泉会長)

前回の改定素案に比べてわかりやすいまとめになった。また、図や写真も入って見やすくなった。

3ページの図が入って良くなったが、「持続」「安全」「強靱」の3つを太い線や点線等で結ぶなど、つながっているイメージが出るとさらに良くなると思う。

(小熊委員)

大変わかりやすくなった。

特に、73ページ以降の目標値を現状値の内訳と一緒に示したのが良いと思う。目標達成のために、どこに力を入れる必要があるかがわかりやすくなって、素晴らしい改善点だと思う。

先ほど小泉会長からご指摘のあった3ページの図について、私もこの図が入って良いと思った。わかりやすさという観点で改善された。

写真の追加も、イメージを持ちやすいので素晴らしいと思う。

DXの件は、もともとそういう意識をもって作成されたとのことで、何かを変更されたというより、わかりやすくされたということかと思うので、これについても合理的な見直しをされたと思う。

(長岡委員)

全体として、まとまっていると思う。

この間の能登半島地震は、我々に耐震化の大切さを思い起こさせた。37ペー

ジに基幹管路の耐震適合率があるが、例えば、耐震化率とか、配水支管を含めた耐震化率や耐震適合率のデータが改定案にはない。基幹管路でも十分だが、耐震適合率だと K 形継手でも抜けることが結構あるので、耐震化率も把握したほうが良いと思う。

(事務局)

ビジョンに記載する評価指標として、基幹管路の耐震適合率を示している。耐震化率が重要という認識はあるので、引き続き状況を把握しながら、耐震化の進んでいないところは促進するように、いろいろな場を使って事業者に働きかけをしていきたい。

(小泉会長)

本日欠席された委員からは何か意見などは出ているか。

(事務局)

本日欠席の佐藤委員及び山口委員に対しては、事前にご説明をしており、改定案について了承いただいている。

(小泉会長)

表紙は、資料3のとおりになるのか。タイトルに「改定案」が入るのか。

(事務局)

タイトルの「改定案」は削除し、下段の年月は令和6年3月と記載する。

(小泉会長)

前回のビジョンの表紙はカラー写真が入っていたが、今回は白地というのは寂しいと思う。カラー写真など入らないか。

(事務局)

昨年策定した水道広域化推進プランなど他の計画に併せてシンプルな表紙にしているが、ご意見を踏まえて、全面ではなくとも、一部分でも水道に関する絵などが入れられないか検討したい。

(小熊委員)

今回の改定で現状を記載しているが、圏域ごとの内訳が出ているのが大変特徴的に思う。つまびらかにデータが開示され、素晴らしいことと思う。水道事業者の皆様が掲載について了承済みというのは承知しているが、73 ページ以降の表では県西部で数字が弱い部分が明らかに見える。今後、県民の目に触れた際に心配される方もいるかと思うが、どのように対応されるのか、お考えを伺いたい。特に、76 ページにある、「安全な水の供給」という項目で県西部の低い数字が出ていることについて、県民がどのような印象をもつのか。

(事務局)

ご指摘のとおり、県西部の方の数字をみると厳しい状況である。現状をしっかりと把握し、示すことによって、県や水道事業者もしっかりとした取組みにつなげたい。それにより、県全体として底上げしていくことが重要であると考えている。

圏域ごとの課題を見据え、県全域で取組みを進める。県として支援できることはフォローアップを行う。そのためにここでしっかりと現状を提示していくことが重要と考えている。

(長岡委員)

県西部の状況に対する解決策は、改定案のどのページに記載されているのか。

(事務局)

県西部の課題として、ハードの整備に係る部分もあるが、共通して懸念されているのが人材の部分である。解決に向けた県の役割については71 ページに記載しており、水道事業者の連携や技術的な助言などの支援を行うこととしている。

(長岡委員)

県西部で、県営水道の箱根地区だけが民間に委託という形をとっている。それが良いかどうかは検討の必要があると思うが、そういう形を広げていくとか、または、その事業者が広域的に維持管理していくことはあるのか。企業庁の考えもあると思うが、県としての考えを伺いたい。

(事務局)

以前、県西部の事業者に箱根地区の包括委託の取組みを紹介したことがある。

小田原市も高田浄水場を再構築した後にDBO方式で維持管理を民間委託するという話もある。このような事例を紹介して広がりが出るのであれば、そういうアプローチもあり得ると考えており、今後は従来の単なる紹介ではなく、踏み込んで広がりを持てるようになれば良いと思う。

先ほど、お伝えしたように、人材不足は確実に課題としてある。ただ、各自治体も有効策を見出すことが難しいようであるので、課題解決に向けて視点を広げるよう助言するのもよいと思う。

(浅見委員)

表を見直したことで、現状値と目標が見やすくなっており、また、DXについても明記したとのことで、良くなったと思う。今年度、西部地域の水安全計画の作成研修を県の方でも主導され、当方も講師として参加させていただいたが、西部の方々を中心に熱心な参加が見られた。パブリックコメントにおいても水質に関する調査の必要性が指摘されており、今後とも水質に関する調査、対策の一層の充実、DXの一層の活用が行われるよう検討をお願いしたい。

(事務局)

了解しました。

(小泉会長)

今回、神奈川県全体のビジョンの改定版ができあがるということで、特に県西部にどう取り組んでいくのか、次のステップで見えてきていると思う。ビジョンができて終わりということではなく、次のステップとして具体的にどうしたら良いかを考えていくことが大事だと思うので、ぜひよろしくをお願いしたい。

神奈川全体がバランスよく発展していければよいと思う。

委員の皆様、神奈川県水道ビジョン改定案について、原案のとおりでよろしいでしょうか。

<委員了承>

(小泉会長)

それでは、原案のとおりとして本検討会の議論を終わりたいと思う。

以上